

まいぶんfan

向日市の埋蔵文化財の最新情報を提供します。

Archaeological Information of Muko-city, Kyoto-pref, Japan



長岡宮大極殿院回廊CG復原～北西隅角から～



回廊遺構検出状況～長岡宮跡第508次調査地：北西から～

長岡宮大極殿院回廊の調査

京都府向日市鶏冠井町大極殿

昨年なごかきゅうだいごくでんいんかいろうの夏から秋にかけて、長岡宮大極殿院回廊の北西部を調査しました。大極殿院回廊とは、大極殿・大極殿後殿しょうあんてん（小安殿）を囲う廊下状の塀（回廊）です。今回の回廊は3本の柱で屋根を支え、中央の柱の間に壁を設けてその両側（内外）を廊下状にする複廊という構造でした。

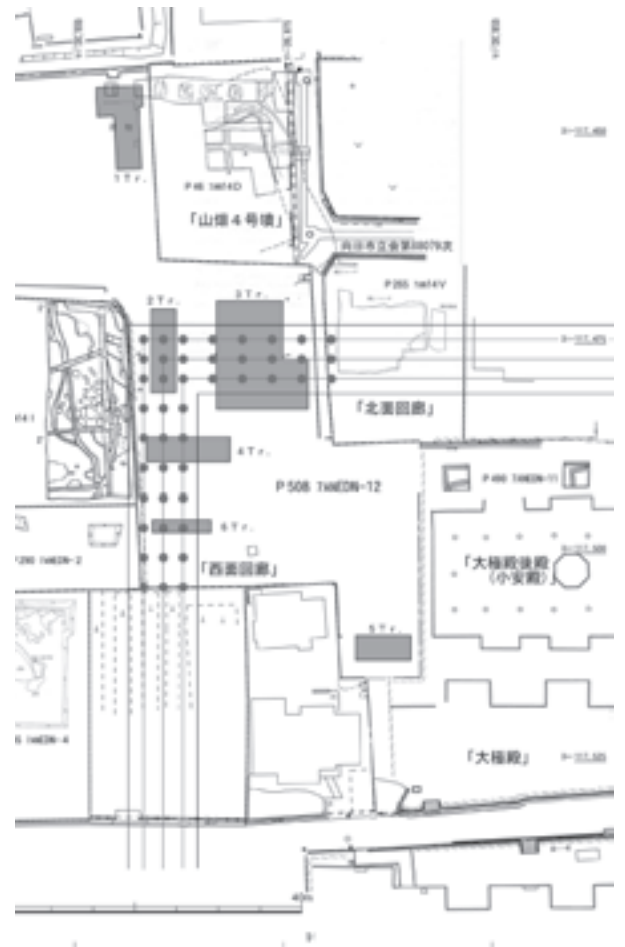
調査では西面回廊はすでに深く削られており確認することができませんでしたが、北面回廊の東西2間、南北2間分、8基の礎石据え付け穴を確認しました。回廊の柱間は東西約3.6m（12尺）、南北約2.4m（8尺）でした。礎石据え付け穴は、平面形が略円形で規模は直径1.2～1.3mでした。穴は小石が混じる土と精良な粘土を交互に用いて版築されていました。深さは0.1m前後と辛うじて穴の底面近くを検出することができました。また礎石据え付け穴の南北に、基壇外装の凝灰岩を抜き取った溝状の痕跡を2条確認しました。幅は0.8～1.0m、深さ約0.1m、浅い皿状の断面形でした。抜き取った際にはがれた凝灰岩屑は確認できなかったため、基壇の端を壊しながら大きく掘り込んで抜き取ったと思われます。両者の間隔は8.08m（約27.3尺）で、これにより基壇の規模が約8.3m（28尺）とほぼ確定できました。

その他、下層から古墳の周濠2条と長岡京期以前の土器棺1基を確認しました。出土遺物には、長岡京期の土器類、重圈文軒丸瓦、平・丸瓦、凝灰岩片の他、古墳時代の埴輪きぬがさ（蓋形・円筒）、須恵器があります。

調査の成果をまとめると、今回初めて大極殿院回廊の確実な柱位置や基壇幅を特定することができました。さらに正確な測量成果から、回廊が大極殿の中軸線を基準に割り付けされていたことが判明しました。また長岡京の造営時に破壊された古墳を確認したことも成果の一つです。

調査地は、中山修一先生らとともに長岡京研究の黎明期を支えた小林清先生の旧宅跡にあたります。今回の調査では、小林先生に関わると思われる遺物、『長岡京第一回発掘記念』と手書きされた湯呑み茶碗も出土しています。

(中島信親)



長岡宮大極殿院北西部の遺構配置（網掛け部分は調査区）



「長岡京第一回発掘記念」湯呑み



回廊遺構検出状況（南から）



回廊CG復原と調査地（南東から）

最古の大型前方後方墳の解明に向けて～『元稲荷古墳の研究』発刊～

もといなり

元稲荷古墳は平成28年3月1日、『乙訓古墳群』として国史跡に指定されました。当センターでは平成18年より、本墳の墳丘に対する範囲内容確認調査を実施して参りました。8次の調査を重ね、平成25年度にはこれまでの調査成果を総括した報告書を刊行し、本墳はわが国の歴史を語る上で欠かすことのできない重要な遺跡として評価いたしました。本書はその普及版として、論考4編を追加し、写真図版を可能な限り原色に改め作成したものです。

本書の内容は、55年にわたる10次の発掘成果を集約し、出土遺物の再整理報告ならびに遺構・遺物に対する考古学的、自然科学的分析の成果、写真図版で構成されています。とくに、墳丘、埋葬施設、副葬品、埴輪・土器など古墳を構成するさまざまな要素について、専門の研究者の参加をえて最新の研究水準に沿った検討成果が1冊にまとめられているところに学術書としての大きな意義があります。

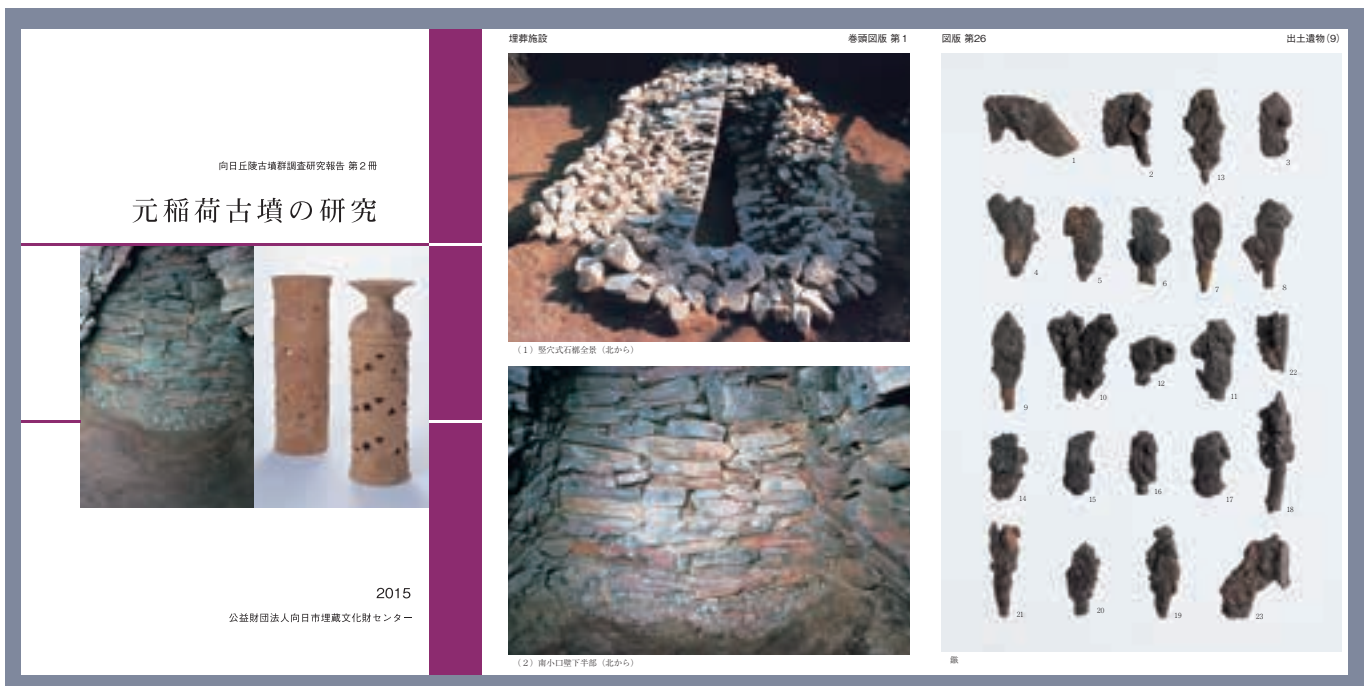
本書を手に入れば元稲荷古墳の全体像について窺い知ることができます。乙訓地域の歴史にとどまらず、わが国の古墳時代の政治社会を解明する上で重要な手がかりを元稲荷古墳は有しています。

元稲荷古墳の墳丘は、神戸市西求女塚古墳と同形同大に復原でき、築造規格を同じくしていた可能性が考えられます。埋葬施設は後方部に^{にしもとめづか}竪穴式石槨が1基設けられ、その構造は^{よせむね}寄棟風の家形を呈し、王権中枢部の首長墳と近似しています。副葬品については、武器4種（刀、剣、ヤリ、鏃）、農具2種（方形鋤・鋤先、鎌）、工具5種（有袋^{のみ}鑿状鉄製品、有袋^{やりがんな}鉄斧、^{とうす}鉞、有袋鑿、刀子）、漁具2種（刺突具、ヤス）を確認しました。ヤリには剣の転用がみられ、木製装具も良好に遺存しています。鉞、刺突具、ヤスは同じ場所に置かれ、12本以上ある刀子は布に包んで副葬されていました。また、鉄製品の断片に付着した漆膜から、綾杉文をあしらった編物の一部がみつき、矢を納めた^{ゆぎ}鞞の存在を明らかにすることができました。農工漁具が8品目以上で構成されるのは、島根県神原神社古墳とならんで最も多く、武器類の数量を加えると出現期の古墳では傑出した副葬品の内容を備えています。

元稲荷古墳の重要な特性は、墳丘の築造規格・技術、竪穴式石槨の構造、副葬品の種類と数量、特殊器台形埴輪を用いた墳頂での儀礼行為、以上のすべてが、大和の大王墓級古墳と遜色なく備わっている点につきるといえます。いっぽうで、前方後方墳を採用する背景については、元稲荷古墳の被葬者が王権内部で占めた政治階層的地位をあらわしたものと推測できます。

本書が地域史や古墳時代史を究明するための基本文献として、ひろく活用されることを期待しています。（梅本康広）

本文 280 頁、巻頭図版 8、図版 32 2015 年 12 月発刊 定価 2,800 円



『元稲荷古墳の研究』表紙・図版見本

見て、聴いて、感じて、まなぶ!!! 〈向日丘陵の古墳〉

平成28年3月1日、向日市の古墳5基が『乙訓古墳群』として、国史跡に指定されました。昨年の3月には寺戸大塚古墳が先行して指定を受け、五塚原古墳、元稲荷古墳、南条古墳、物集女車塚古墳がこのたび国指定史跡となりました。

『乙訓古墳群』の指定を控え、平成27年度の普及事業は史跡指定のイベントとしてこれらの古墳を素材とする展示会や講座、講演会、史跡めぐり、親子バスツアーを計画しました。

調査研究成果展2015「埴輪からみた向日丘陵の古墳」

展示会では、乙訓地域の古墳出土埴輪を揃え、古墳ごとに埴輪の形や製作技術の違いを見いだして、畿内の埴輪生産の動向に沿って変遷を考えました。さらに、埴輪生産を主導したヤマト王権と乙訓の古墳を築造した各地域の政治勢力の関係や埴輪をもたない五塚原古墳の存在意義にせまりました。

関連行事として、広瀬和雄氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）より、「寺戸大塚古墳と大和政権」と題する講演をしていただきました。



調査研究成果展開催状況（会場：向日市文化資料館）



調査研究成果展講演会開催風景（講師：広瀬和雄氏）

平成27年度市民考古学講座「古墳の謎にせまる」

講座では、『乙訓古墳群』を構成する向日丘陵の5基の首長墓について、写真や映像、復原図などを使ってわかりやすく解説し、現地見学とセットで、古墳にまつわるさまざまな謎にせまりました。

関連行事として、寺澤薫氏（桜井市纏向学研究センター所長）より、「前方後円墳の創生」と題する講演をしていただきました。



市民考古学講座講演会開催風景（講師：寺澤薫氏）

史跡めぐり 大発見向日市「向日丘陵の古墳をめぐる」

史跡めぐりは、向日市文化資料館を出発して、①物集女車塚古墳、②寺戸大塚古墳、③桓武天皇皇后陵、④五塚原古墳、⑤元稲荷古墳をたずね、史跡長岡宮跡（朝堂院公園）まで歩きました。

約4kmの道程を2時間ほどかけて起伏のある丘陵斜面をのぼり下りしながら、古墳の立地や周辺景観を体感していただきました。

親子文化財バスツアー「古墳をめぐる旅～向日市・西京区～」

向日市・西京区協働イベントとして、向日丘陵と洛西の古墳（元稲荷古墳、寺戸大塚古墳、芝古墳、大枝山古墳群）を親子でめぐり、向日市文化資料館では埴輪の展示資料を見学し勾玉づくりも体験しました。（梅本康広）



親子文化財バスツアー開催風景（寺戸大塚古墳にて）



史跡めぐり開催風景（物集女車塚古墳にて）